

7

会社概要 (2020年8月31日現在)

Corporate Data

商号

株式会社竹内製作所

(英文社名)

TAKEUCHI MFG. CO., LTD.

本社

〒389-0605

長野県埴科郡坂城町上平205番地

代表者

代表取締役社長 竹内 敏也

設立年月日

1963年8月21日

資本金

3,632百万円

事業内容

建設機械の開発、製造及び販売

従業員数

852名 (連結)

● 役員の状況

代表取締役会長

竹内 明雄

代表取締役社長

竹内 敏也

取締役

渡辺 孝彦

取締役

Clay Eubanks

取締役

小林 修

取締役

横山 浩

社外取締役 (常勤監査等委員)

草間 稔

社外取締役 (監査等委員)

小林 明彦

社外取締役 (監査等委員)

岩渕 道男

● 主要な工場及び営業所

工場

本社工場

長野県埴科郡

戸倉工場

長野県千曲市

営業所

東京営業所

東京都港区

● ネットワーク

日本

株式会社 竹内製作所

米国 (販売子会社)

TAKEUCHI MFG. (U.S.), LTD.

英国 (販売子会社)

TAKEUCHI MFG. (U.K.) LTD.

フランス (販売子会社)

TAKEUCHI FRANCE S.A.S.

中国 (製造・販売子会社)

竹内工程機械 (青島) 有限公司

※上記以外の地域における販売は、各国のディストリビューター (当社とディストリビューターシップ契約を締結した販売店) を通じて販売を行っております。

7

株式の状況 (2020年8月31日現在)

Stock Information

発行可能株式総数

138,000,000株

単元株式数

100株

発行済株式の総数

48,999,000株

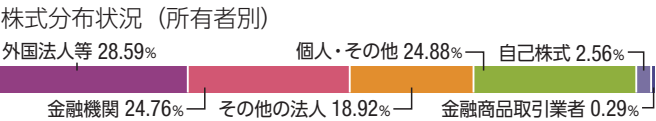
株主数

9,248名

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社日本カストディ銀行	6,118	12.81
株式会社テイク	3,960	8.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,209	6.72
公益財団法人TAKEUCHI育英奨学会	2,702	5.65
竹内 敏也	2,655	5.56
東京中小企業投資育成株式会社	1,803	3.77
STATE STREET CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM44	1,639	3.43
竹内 好敏	1,500	3.14
株式会社八十二銀行	1,440	3.01
GOVERNMENT OF NORWAY	1,153	2.41

※持株比率は自己株式 (1,253,858株) を控除して計算しております。



株主メモ	
事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月
基準日	毎年2月末日
	その他必要あるときは、あらかじめ公告いたします。
配当金受領株主確定日	毎年2月末日 (中間配当を実施するときは8月31日)
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。 http://www.takeuchi-mfg.co.jp/
	ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告ができないときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
(同連絡先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
(同郵送先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
(ご注意)	
1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。	
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。	
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。	



証券コード 6432

第59期 中間報告書

[2020.3.1-2020.8.31]



世界初から世界の

TAKEUCHIへ

From World First to World Leader

株式会社

竹内製作所

トップメッセージ

Message



拡大を続ける小型建機市場をリードし、豊かな社会の実現に貢献

代表取締役社長 竹内 敏也

Q 上期の業績について お聞かせください。

新型コロナウイルスの感染拡大により欧米各国の工事は停滞し、当社グループ、ディストリビューター及びディーラーの営業活動は大きく制限されました。2020年4月9日発表の期初予想では、コロナ禍において全世界の経済活動が今以上に大幅に制限されていたことを受け、通期の連結販売台数は、前期に比べて20%減少するものと予想しました。中でも当第2四半期の販売台数は大きく落ち込むと想定し、上期の売上高は前年同期比28%減、営業利益は同45%減、経常利益は同43%減、親会社株主に帰属する四半期純利益も同43%減の予想を立てました。

しかし、感染再拡大のリスクを伴いつつも、世界各国で経済活動が再開されたことを皮切りに、住宅の繰越・反動需要が生じていること、水道管やガス管等の生活インフラの整備・維持工事が急ピッチで再開されていること等により、お客様の購入マインドは、想定ほどの低下は見られず、当第2四半期の落ち込みは浅く底打ちし、回復に転じました。

一方で、コロナ禍においても当社グループは、2020年1月に油圧ショベル「TB370」を、同年2月にはクローラーキャリア「TCR50-2」を、同年4月にはクローラーローダー

「TL8R-2」を、さらに同年8月にはミニショベル「TB257FR」を市場投入し、お客様のニーズや期待に積極的に対応してまいりました。

以上の要因によって、業績は期初予想を大幅に上回り、当上期の売上高は531億7千7百万円（前年同期比14.9%減）となりました。利益面につきましては、製品販売価格の値上げ、出荷台数の減少に伴う運搬費の減少、製品保証引当金繰入額の減少等の増益要因も加わり、営業利益は68億1千4百万円（同13.2%減）、経常利益は67億5千8百万円（同10.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、税金費用を18億4千1百万円計上し、49億1千6百万円（同10.3%減）となりました。

Q 2021年2月期の通期の見通しは いかがでしょうか。

通期の業績予想につきましては、販売台数の予想を前期に比べて20%減少から13%減少へと修正するとともに、上期の業績を考慮し、売上高は1,019億円（前期比12.1%減）、営業利益は111億円（同12.3%減）、経常利益は110億円（同11.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は80億円（同12.0%減）と、期初予想を上方修正しました。

Q 中長期的な将来展望について お聞かせください。

全世界的に都市化が進行し、都市人口の増加は今後も衰える気配がありません。また、都市機能やそれを支えるインフラは必ず老朽化するため、機能を維持するには定期的なメンテナンス工事が一層不可欠なものとなっていきます。従いまして、小型建機に対する需要は今後も増加し、小型建機市場の拡大傾向は続くものと考えています。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、短期的な停滞を余儀なくされていますが、当社グループは現在遂行している第二次中期経営計画を着実に推し進め、中長期的な市場拡大に対応してまいります。調達、販売、開発、生産の各部門でそれぞれに課題を洗い出し、その改善を重点施策として推進してまいります。販売に関しては、アフターサービスの充実に力を入れています。欧州では製品の保守に必要な大規模パーツセンターの開設に着手し、保守パーツのリードタイム短縮に向け取り組んでいます。米国では倉庫の拡張に加え、販売や保守のトレーニングセンターも建設中です。開発面ではバッテリー式ミニショベルの開発に注力し、稼働時間の長い実用的な製品を市場に投入することで、業界をリードしてまいります。また、生産能力拡大のための新工場建設も視野に入れ、中長期的な需要の拡大に対応してまいります。

Q 最後に、株主の皆様へのメッセージを お願いいたします。

当社グループは、小型建機の市場において、パワフル、耐久性、操作性、快適性といった独自の付加価値を強みとして差別化を図り、当社グループのファンを創造・拡大することで成長を重ねてまいりました。

当社グループの製品は、暮らしを支える建設工事の現場で活躍しています。国連で採択された“持続可能な開発目標(SDGs)”の「住み続けられるまちづくりを」は、当社グループの事業領域そのものを指していると言えます。当社グループの強みに磨きをかけるとともに、SDGsを念頭にサステナブルな経営を推進し、地球に優しく豊かな社会の実現に貢献することで、さらなる企業価値の拡大に努めてまいります。

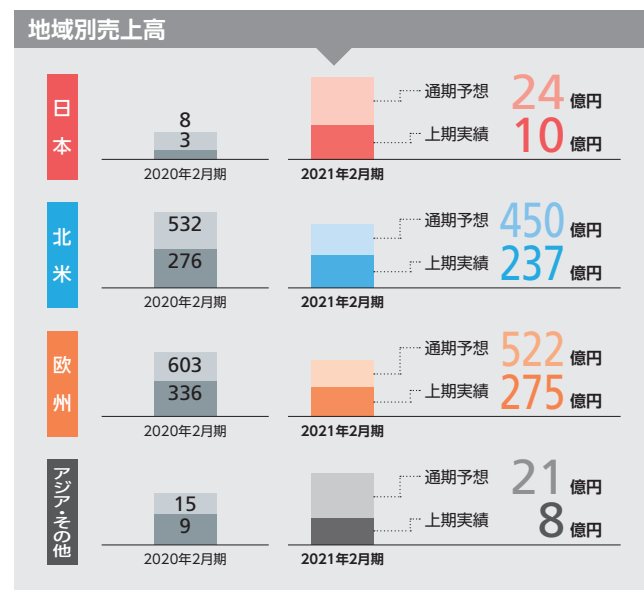
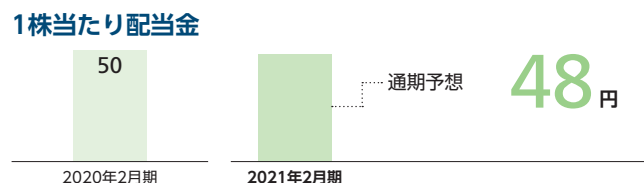
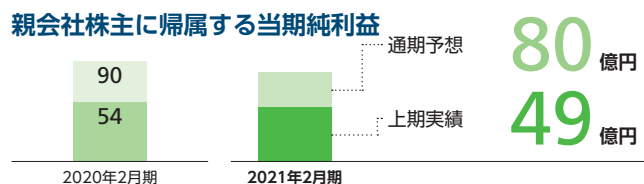
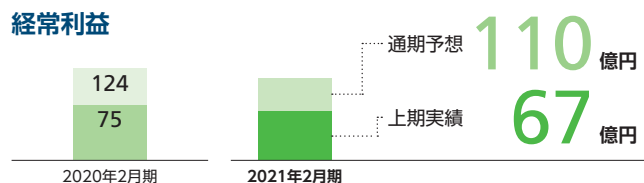
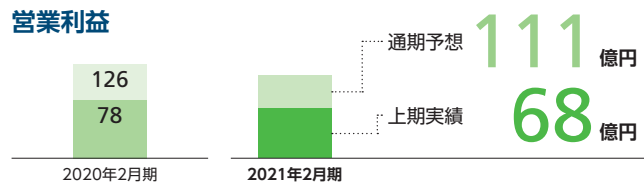
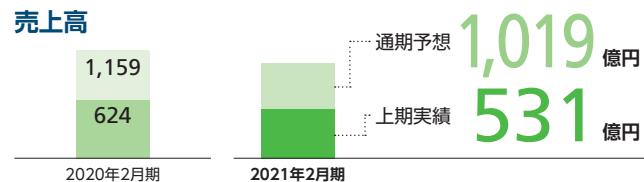
株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q 当上期の事業環境について お聞かせください。

当上期（2020年3月1日から2020年8月31日まで）の経済動向は、新型コロナウイルスの感染拡大により、企業の投資マインドが全世界的に著しく縮小しました。当社グループの主力市場である米国及び欧州についても、外出規制と雇用環境の悪化による個人消費の急速な冷え込みによって住宅需要も一気に落ち込み、衣食住の「住」に深く関わる当社製品の販売台数にも影響が及びました。5月に入るとロックダウンの解除など、各国の状況に違いはありますが、欧米先進諸国は段階的な経済活動の再開に動き始めており、景気悪化はいったん底を打ちました。しかしながら、新型コロナウイルスの脅威は依然として継続しており、経済活動の再開と感染防止の両立に向け、各国政府は非常に難しい舵取りを迫られています。また、コロナ禍を巡る根深い米中対立、米国の大統領選挙を控えた政治経済の停滞、EUと英国の通商交渉の難航など不安材料も存在しており、経済の正常化には相応の時間を要するものと考えています。

連結財務ハイライト

Consolidated Financial Highlight



配当金の予想について

当社は、株主の皆様に対する利益配分を経営の重要課題の一つとして位置付けております。利益配分につきましては、経営体質の強化並びに今後の事業展開に備えるために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続に努めることを基本方針としております。

当社グループの連結業績は売上高、利益面ともに前期を下回ると見込んでおります。また、当社は2021年に長野県青木村に工場用地を取得予定であり、当用地での新工場建設も含めまして、将来的に事業拡大を見据えた資金需要が内在しております。以上を総合的に勘案した結果、2021年2月期末の配当予想につきましては、1株当たり48円とさせていただきます。

2021年2月期上期の為替レートと通期予想の為替レートについて

当上期の実勢為替レート（期中平均）は、1米ドル＝107.81円、1英ポンド＝134.84円、1ユーロ＝120.50円、1人民元＝15.30円でした。

第3四半期以降の前提為替レートは、1米ドル＝104円、1英ポンド＝135円、1ユーロ＝124円、1人民元＝15.40円としております。

トピックス 新製品紹介

Topics

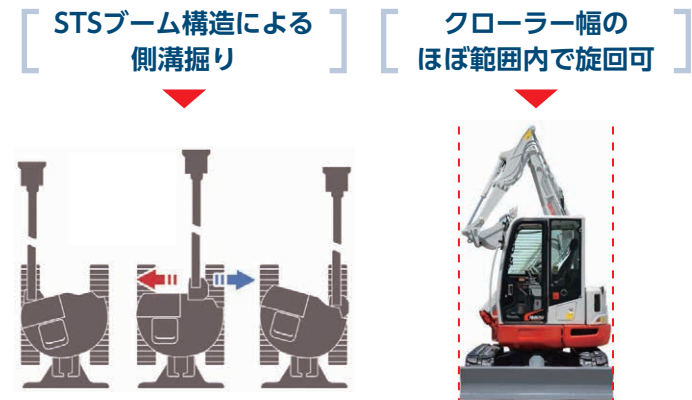
密集地や狭小地での作業に適した製品 ミニショベル『TB257FR』を発売



TB257FR

5.8トンのミニショベル『TB257FR』を2020年8月より販売開始しました。同製品は『TB153FR』の後継機種であり、当社独自のSide-to-Side（STS）ブーム構造（※）を継承したことで、直感的な操作性と標準機並みの安定性を実現したほか、クローラー幅のほぼ範囲内でフル旋回できることが特長として挙げられます。

※Side-to-Side（STS）ブーム構造：キャビン前方でブーム（腕の部分）が左右にスライドする構造



POINT

- ① Side-to-Sideブーム構造により、本体が正面を向いた状態でも側溝をまっすぐ掘削できる作業性を実現
- ② 作業シーンに応じたモード（標準、ECO、高地）を選択することで燃料の消費効率を最適化
- ③ ワンクラス上の広々とした居住空間を確保し、長時間でも疲れにくく快適に作業することが可能
- ④ 「Takeuchi Fleet Management System」を搭載し、製品の稼働情報、メンテナンス履歴などを遠隔監視することが可能
- ⑤ エンジン出力を30%高めて走行力を向上させつつ、日欧米の最新の排出ガス規制に適合

当社製品の強みである掘削力、耐久性、操作性はそのままに、お客様の用途に沿った製品ラインナップを今後も拡充してまいります。

特集 世界のニーズに応える Feature TAKEUCHIの製品力



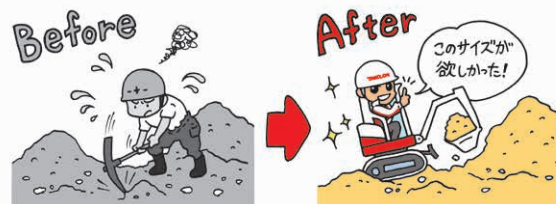
世界初から世界の TAKEUCHI へ

当社の主力製品は、ミニショベル（製品質量6トン未満）、油圧ショベル（製品質量6トン以上）、クローラーローダーで、「世界初のミニショベル」と「世界初のクローラーローダー」により、新たな市場を切り拓き、常に世界のニーズに応えることで成長を遂げてきました。

世界初の360度・全旋回ミニショベルTB1000（1971年）の登場により、手作業では1週間かかっていた仕事が1日に短縮され、重労働からも解放されました。こうしてミニショベルは、土木作業員のツルハシ代わりとして建設現場で広く受け入れられ、急速に普及していきました。

また、世界初のクローラーローダーTL20（1986年）は、従来のタイヤ駆動のスキッドステアローダーの足回りをクローラー式（＝無限軌道式）にした製品です。不整地、特に雨でぬかるんだ場所での作業安定性が高く、今でも圧倒的な支持を得ています。粘土質の土地が多い米国で、需要を占めていることも特徴です。

1971年の世界初



1986年の世界初



独自の付加価値（パワフル、耐久性、操作性、快適性）で竹内ファンを創造・拡大

当社製品の主な用途

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 住宅関連
-基礎工事 交通インフラ
-生活道路、鉄道 ライフライン
-上下水道、ガス、電気 建設投資
-工場、商業施設、公営施設 | <ul style="list-style-type: none"> 都市緑化
-造園、植樹、ガーデニング 災害復旧
-地震、ハリケーン、山火事 その他
-農林業、解体、粉砕 |
|---|---|

当社製品の販売ゾーン



居住区域における小規模工事で活躍

ミニショベルの使用シーン



側溝掘り作業

道路整備

住宅基礎工事

水道管のメンテナンス

クローラーローダーの使用シーン

アタッチメントを交換することで様々な用途で活躍



不整地の整備

芝の運搬

除雪作業

都市整備

「衣食住」の「住」に深く関わる“なくてはならない製品”

- 1 世界人口の増加による住宅需要の高まり
- 2 インフラの老朽化による継続的なメンテナンス需要
- 3 増加傾向にある自然災害の復旧工事でも活躍

